

いなづま

題字 小寺 寛一

発行所 函館地方電気工事協同組合
 編集総務部
 住所 函館市日乃出町7番22号
 印刷所 有限会社 畠山印刷



『臨時供給工事の運用改訂についてのお願い』

かねてより北海道電力より道工業組合へ提案された標題の件につき、まず函館管内をモデル実施とし平成10年より全道に施行する事となりました。

既に去る11月12日より管内北電各営業所毎に第一回目の説明会を催し、運用について組合員の皆様の御理解と御協力をお願いした処であります。

臨時電灯（電力）の引込線等の設備を現行では需用家の負担で需用家が施工（実際は工事業者）が施工しておりますが、保安上の観点からこのたび運用を改訂して需用家の負担で北電が施工（北電の資産）することになりました。従つて北電が施工と云う事は需用家の臨時供給を申込んだ組合員が、引込線の取付と從つて期間終了後の撤去工事を、現行の一般供給工事の引込線取付と同じ扱いで施工するという事であります。但し北電は需用家より臨時申込みと同時に『低圧架空引込線臨時工事費』を前納してもらう事となります。以上がこの概要であります。組合員側としても、いろいろな問題点がある事は予想される処であります。とりあえず12月1日からのモデル実施と云う事でありますので問題点があればその都度協議を経ながら運用に入ることとなりました。

北海道電力㈱としても建設業関連の各団体・機関・事業所等には充分なPRを展開することになつております。又技術的な諸問題（特に市街地の土木工事関係の仮設工事）等につきましても、組合として専門小委員会をつくり、都度北電側との協議を経ながらよりよい方法を模索する積りであります。何卒組合員各位のご理解とご協力をお願いいたします。

役員会だより

第一回役員会

八・四・二三

一、慶弔報告

(1) 日成電気工事代表者ご尊父逝去

二、貸付報告

二社 八〇万円

三、各支部報告並提案事項

各支部それぞれ会議を開催、支部長・総代・支部

四、総務委員会事項

(1) 代表者の変更について

・(株)北弘電社函館支部
新中田 進 ㊞伊藤孝一

(2) 会社の商号変更

・(株)新生テクノス(株)北海道支店函館営業所

・(株)新生電業(株)北海道支店函館営業所

・(株)電気保安功労者表彰の推せんについて

・(株)北海道通産業局長表彰 藤電気工事(株)

・(株)北海道電気保安委員長表彰 山内工業(株)

・(株)平成八年度通常総代会について

・(株)平成七年度事業報告について

・(株)平成七年度財産目録、貸借対照表、損益計算書

について

・(株)平成七年度剩余金処分(案)について

・(株)平成八年度事業計画(案)ならびに収支予算(案)

について

・(株)大原電気工業——(株)大原電気工業

・(株)金子電気——(株)金子電気工業

・(株)吉浦電機商会——(株)吉浦電機工業

・(株)渋谷電機工業——(株)渋谷電機工業

・(株)平野電気——平野電気工業所

以上いつれも承認となる。

第二回役員会

八・五・二八

一、慶弔報告

(1) 影浦電気商会代表者ご尊父逝去

二、貸付報告

三社 一三〇万円

三、各支部報告並提案事項

各支部それぞれ支部会議を開催

四、総務委員会事項

(1) 会計期末監査報告

(2) 長期借入金について

(3) 大レクリエーションの実施について

(4) 函館港まつり行事の参加について

(5) 外壁の補修について

(6) 住宅電気保修センター処理実績について

五、技術委員会事項

(1) 住宅電気保修センターの処理実績について

臨時役員会

八・五・二八

第四回役員会

八・七・二二

五、技術委員会事項

(1) 高圧受電での内外線工事の統一について

(2) 第二種電気工事士国家試験(実技)受験のための準備講習会の開催について

六、事業委員会事項

(1) 住宅電気保修センター処理実績について

(2) 坂村電機商会代表者病気入院見舞

二、貸付報告

五社 一八〇万円

三、各支部報告並提案事項

(1) 時間の都合により、後日文書報告をする。

四、総務委員会事項

(1) 電機保安功労者の表彰について

・(株)北海道通産業局長表彰

・(株)藤電機工事(株)(営業所の部)

・(株)北海道電気保安委員長表彰

・(株)山内工業(株)(営業所の部)

・(株)第四回大レクリエーションの報告

(3) (2) 事務局職員給与改定ならびに夏期手当の支給報告

(4) 代表者の変更について

・(株)テクセル函館支社

告
・(株)後藤 譲 ㊞土井俊博

四、総務委員会事項

(1) 取引銀行変更について

- 五、技術委員会事項
 (1) 臨時工事費運用変更に伴なう打合会議について
 (2) 内線規程説明会について
- (3) (2) 第四回レクリエーションの実施について
 (4) (4) 函館港まつり一万人踊りパレードの参加について
 (5) (5) 会館外壁補修工事について
 (6) (6) 全国安全週間の実施について
 (7) (7) 事務局職員給与改定および夏期手当の支給について
 (8) (8) 利用分量配当に対する疑義について
 (9) (9) いて
 (10) (10) 利用分量配当に対する疑義について
 (11) (11) いて
 (12) (12) て

7 7月3日	第二種電気工事士試験推進委員会に吉田理事長出席（於北電）	事業者台帳の作成について 電気使用安全月間の行事について 国民年金基金の加入拡大について 函館港まつり三万人踊りパレードについて 北電無届工事について
4 4日	北海道中小企業団体事務局長会議に坂本事務局長出席（於札幌市）	
15 6月14日	東支部会議	五、技術委員会事項 (1) 第二種電気工事士受験準備講習会について (2) 計測器受払業務委託実績について (3) 北電計器箱（シングル・トリプル）追加色について (4) 計測器巡回校正試験について
15 6月15日	函館機械金属造船工業協同組合連合会会長 村瀬順一郎氏叙勲祝賀会に吉田理事長出席 (於ホテル函館ロイヤル)	(1) 事業委員会事項 (2) 住友共済制度の運営費・事務費の還付について
18 6月18日	道工業組合役員会に吉田理事長、佐藤副理 事長出席（於北海道電気会館）	
19 6月19日	第三回役員会	
24 6月24日	吉田理事長受章祝賀会（於ホテル函館ロイ ヤル）	
28 6月28日	北電検査工事打合会議	
30 6月30日	青森県電気工事業工業組合五所川原支部青 年部来函し、当組合青年部と懇談会開催 正副理事長会議	
28 7月28日	青年部レクリエーション打合会議	
11 7月11日	青年部例会	会に佐々木(三)理事出席（於建設会館）
12 7月12日	函館地区団体事務長総会に坂本事務局長出 席（於入川）	建設業災害防止協議会函館支部理事会・總 席
15 7月15日	第二種電気工事士国家試験（実技）受験の ための準備講習会	いまづま編集会議
17 7月17日	第四回役員会	第二種電気工事士国家試験（実技）受験の ための準備講習会
19 7月19日	赤川支部会議	函館港まつり「三万人踊りパレード」に参 加（詳細別掲）
22 7月22日	中渡島支部会議	第一回北工連絡会
24 7月24日	赤川支部会議	函館港まつり「三万人踊りパレード」に参 加（詳細別掲）
26 7月26日	道工業組合役員会に吉田理事長、佐藤副理 事長出席（於北海道電気会館）	一、日本電設工業㈱北海道支店函館営業所（北支部） 一、牧電気工事（赤川支部） 一、花田電気（福島支部） 一、㈲花田電気（福島支部） 一、花田浩二 代表取締役 花田秀夫 一、伊藤推貞夫 営業所長 一、澤村雄司 営業所長
28 7月28日	函館港まつり「三万人踊りパレード」に参 加（詳細別掲）	函館市山の手三丁目 函館市陣川町 八一七 一三一一二
30 7月30日	函館管工事業協同組合理事長小林明氏北海 道社会貢献賞・建設大臣表彰受 祝賀会に 吉田理事長出席（於五島軒本店）	一、六月上旬 坂村電機商会代表坂村巳之吉殿、病氣 入院 一、六月中旬 事務局越田職員、病氣入院 一、九月下旬 事務局坂本事務局長、病氣入院

組合行事

組合員の異動		(新) (旧)
一、株工藤電気商会（赤川支部） 代表取締役 工藤裕子	一、株工藤電気商会（赤川支部） 代表取締役 工藤雅史	
一、㈲高瀬電気商会（八雲支部）高瀬電気商会 一、花田電気（福島支部） 一、花田浩二 代表取締役 花田秀夫	一、㈲高瀬電気商会（八雲支部）高瀬電気商会 一、花田電気（福島支部） 一、花田浩二 代表取締役 花田秀夫	
一、日本電設工業㈱北海道支店函館営業所（北支部） 一、牧電気工事（赤川支部） 一、花田電気（福島支部） 一、花田浩二 代表取締役 花田秀夫 一、伊藤推貞夫 営業所長 一、澤村雄司 営業所長	一、日本電設工業㈱北海道支店函館営業所（北支部） 一、牧電気工事（赤川支部） 一、花田電気（福島支部） 一、花田浩二 代表取締役 花田秀夫 一、伊藤推貞夫 営業所長 一、澤村雄司 営業所長	
一、日本電設工業㈱北海道支店函館営業所（北支部） 一、牧電気工事（赤川支部） 一、花田電気（福島支部） 一、花田浩二 代表取締役 花田秀夫 一、伊藤推貞夫 営業所長 一、澤村雄司 営業所長	一、日本電設工業㈱北海道支店函館営業所（北支部） 一、牧電気工事（赤川支部） 一、花田電気（福島支部） 一、花田浩二 代表取締役 花田秀夫 一、伊藤推貞夫 営業所長 一、澤村雄司 営業所長	

組合員の消息

一、七月十九日	㈱弘電社中田支社長殿ご尊父 ご逝去
一、七月二二日	㈱工藤電気商会代表取締役工藤 雅史殿ご逝去



第四回大レクリエーション

開催さる

今年で第四回目を迎える大レクリエーションが、七月七日(日)曇空の大沼グリーンピア広場において、青年部矢本副部長の力強い開会宣言で賑やかに幕を開きました。

天気予報に反して前日からの霧雨が続く会場では、屋外にするか屋内にするか判断に迷ったそうですが、当日朝に青年部関係者で詰合いの結果、ひたすら天候の回復を祈って屋外に決めたとの報告がありました。午前九時を過ぎた頃から吉田理事長、佐藤・西岡・酒井三副理事長はじめ組合員と従業員・家族、北海道電力㈱函館支店眞部営業部長と社員・家族、電機販売店の社長と社員・家族が続々と集まってきたが大半の人は半袖シャツと軽装なので、じつとして居られない位寒い。筆者は薄い長袖シャツにジャンバーを着ていましたが耐えられず、車のトランクから合羽をとり出して重ね着をしました。

風邪をひいては大変と開始時間を十分程早め、大会長の吉田理事長より「今日一日を芝生の上で元気に楽しく過ごして下さい」との挨拶のあと、来賓の眞部英之北電営業部長、阿部正夫函館市議会議員、北海道電気資材卸業協同組合の加藤眞函館支部長(大興電機株式会社代理)の三氏からご挨拶を頂戴しました。

昨年度綱引大会で優勝の八雲支部、準優勝の赤川支部からカップが返還され、玉津夫人のアナウンスにより参加者約四百名全員がラジオ体操で身体をほぐしました。大人も幼児も入り混り、握手を交わし真剣な表情で

続いて子供達の紅白にわかつての玉入れ競技、我が子のチームに勝たせたいのか子供と一緒に玉を投げる若い母親の顔も意外に真剣に見えました。

次は大人の借物ゲーム、寒さを吹き飛ばすように遠くから「理事長、理事長」と催促をしながらゴールへ走つて来る人、観客席から借物をして来る人、北電の橋谷課長は本部席からテーブルをかついでゴールしたが、入賞したかどうかは確認出来ませんでした。吉田理事長は「トイレに行きたいが、これでは我慢しづらくなつて……」と笑顔で再三借り出されて居りました。

愈々十六チームによる綱引大会の予選が始まりました。ゲーム進行係の佐藤事務局次長の声にも熱が入り次々と勝負を進めていきますが、なにせ芝生が濡れていますので、思うように踏ん張ることが出来ないので、尻餅をつくやら前のめりに倒れるやらで、見ていてる側は可笑しいがやる側は大変です。そんな中で北電チームはすでにミーティングがすんだのか、十人の力が結集されてすんなり予選を勝ち抜きました。昨年優勝の八雲支部は、参加者が三名よりないため青年部から七名が応援に参加、本部席からの「加減して……」との声が聞こえないのかやはり予選を勝ち抜いて仕舞いました。

全員参加の○×クイズは難問、奇問が続くたびに笑い声と溜息で人数が減り、大興電機㈱の佐々木さんが

本日一番の知患者となつて大きな賞品を手にした。続いておなじみの女性による椅子とりゲーム。椅子の廻りを音楽に合わせて歩きながら参加者の数より少ない椅子を取りあうのですが、これだけは上品に振る舞つていたのでは立ち打ちが出来ません。佐藤事務局次長の「腕によりをかけて……」のアナウンスに本部席の奥から「尻によりをかけて……」の声が聞こえていました。椅子の数が少なくなるにつれて動きも活発になり、勢いよく弾き出される人、芝生にすべて転ぶ人など観客の笑いのうち、本日一番のお尻持ちは新響電気商会から参加の藤原さんに決まり、豪華賞品を手にして午前中の競技を終しました。



手にして腹ごしらえが出来た頃ビンゴゲームがはじまりました。

「リーチ」「ビンゴ」と急がしく走り廻っているうちに山と積まれた賞品も出つくして午後の部の競技が開始されました。子供・女性の綱引きに続いてチーム対抗三位決定戦の開始、北支部のAとBチームの内輪対決はBチームが勝ち上りました。愈々優勝決定戦、北電、八雲支部（陰で青年部との声があり）の対決です。お互いに一回づつ勝って最後の勝負、真部営業部長の声援の甲斐があつて北電チームが初優勝を飾りました。

愈々最後のゲーム、一等賞品“炊飯ジャー”的当り番号です。吉田理事長が箱の中から一枚づつ引いて佐藤次長が読みあけていきます。皆にこやかな顔で賞品を受け取つて付近の人々に品物を披露している姿がほほえましく映ります。吉田理事長の顔が一段とこわばり



ました。一等の抽選です。取り出したのは子供用の券です。佐藤次長の当り番号の読みあげに飛んできたのは、中央支部(有)日光電気のファミリーでした。遠くで久保ファミリーが万才をしていました。

閉会式では、吉田大会長から綱引き大会の優勝チーム北海道電力と準優勝チームの八雲支部に理事長杯を手渡した後、大会実行委員長佐藤副理事長より、大会は盛会裡に終つたことならびに本日のために大変ご苦労された青年部に対するねぎらいと、大会のために協賛戴いた北海道電力㈱と各電材店に対してのお礼の挨拶で無事閉会となりました。





今年からその名も一万人から三万人に変わった恒例の「函館港まつり三万人踊りパレード」が、八月二・三日に開催され、当組合も二日の十字街コースに参加した。昭和六十三年に初参加して以来、雨のため参加を中止した一昨年を除いて通算八回目の参加となる我組合は、いろいろと組合の行事や青年部の他の事業活動で多忙の中ではあったが、過去八回の積み重ねと努力によるノウハウもあり、参加者の取りまとめ、衣装の配付、山車の製作等を組合員および青年部が予定通り進め、八月二日を迎える事となつた。

当日午後六時頃には、組合員、家族、メーカーや電材店の社員など約百二十名が集まり、出発時間にはまだ一時間以上もあつたが、昨年不参加のエネルギーも加えたように盛りあがり、やがて電線マンも勢揃いして一氣にお祭りムードとなつた。用意されたおにぎりと飲み物で腹ごしらえをすませ出発を待つばかりとなつた。

例年通り横断幕、吉田理事長以下三役、舞台車、電線マン、踊り手と続き、賑やかな電線マン音頭に乗つて元気良く踊り約二キロのコースを進行した。途中で三興電機㈱、日本電機保全㈱の冷たいビールの差入れ（毎年の事で感謝致します）に喉を潤し、いよいよパレードの最高潮となる駅前交差点から広小路の特設舞台にかけて観客の大聲援、ボリュームアップのアナウンス、紙吹雪の乱舞の中を、全員燃え尽くすよう踊り切つた。

心地良い汗を流しながら直会々場のホテル函館ロイヤルに移動し、午後八時三十分頃吉田理事長の労いの挨拶と乾杯で参加者全員懇談の時間を過ごした。

今年のパレード参加にあたつても、例年通り各組合員、電材問屋、メーカー各位には、協賛金やパレード参加、高所作業車の貸与、電飾工事等の多大なるご協力を頂き有難うございました。又各担当者、青年部の皆様ご苦労様でした。無事終了しました事に心より感謝とお礼を申し上げます。

恒 例 函館港まつり 三万人パレード 今年も盛大に参加



電気保安功労者の表彰

◎北海道通商産業局長賞

(営業所の部)



藤電気工事株式会社
佐藤梯史氏

◎北海道電気安全委員長賞



(営業所の部)

山内工業株式会社

山内尊洲氏

去る八月二日、札幌市の共済ビルで開催された電気安全大会において表彰されました。

これは、電気安全について永年にわたり保守保安の運営ならびに教育が十分に行なわれて居り、他の模範として認められたもので、普段の努力と功績の賜とお慶び申し上げます。



サントン電気

伊藤説男

昭和二十四年八月二十八日生
函館市神山三丁目四五一九

電話 五六一二一〇八

(有)伊藤電気店、株式会社電気、須藤電気商会を経て、
平成七年十月独立開業。

全道移動事務局長会議 函館で開催

平成八年度全道移動事務局長会議が、八月二十九・三十日の両日、湯の川の花びしホテルにおいて開催されました。

北海道電気工事業組合から島津孝吉理事長、猪股栄三・佐野昇・清水春雄三副理事長はじめ関口光男専務理事ならびに北海道電気工事業厚生年金基金の川瀬譲治常務理事および全日本電気工事業国民年金基金の津田正一常務理事、全道各協組事務局長を迎え、当組合から吉田理事長、佐藤副理事長が出席、午後一時二十分会議が開会されました。

冒頭あいさつに立った島津理事長は「景気回復傾向にあるといわれるが、依然業界を取り巻く経営環境は

厳しい。しかし、住宅建設が六月末の着工戸数で前年を3%上回っており、今後も来年度の消費税アップ、住宅金利の低減から、駆け込み需要が期待される」と期待感を述べました。また、国民年金基金の加入について、本年度の目標達成のため、一層の努力をされたいと要請しました。

続いて、当組合の吉田理事長が歓迎のあいさつを述べたあと出席者二十三名全員が自己紹介をし議事に入りました。

議事では、最初に「国民年金基金の加入促進について」道工組奥村事務局長代理が資料に基づいて説明をされ、次の「国民年金基金制度のしくみについて」は津田常務理事が質問を交えながら、約一時間余にわたって詳しく解説され、出席者一同認識をあらたにいたしました。「厚生年金基金の加入促進と制度の改定に



ついて」、「共同保守管理業務の契約拡大について」、「第三者損害賠償事故の防止対策について」、「道工組創立三十周年記念行事について」それぞれ説明を受けた後質疑応答の時間、最後に来年度の主管協組を小樽と決め午後五時十分に会議を終了いたしました。

温泉で汗を流したあと、午後六時から当組合の西岡・酒井副理事長と佐藤事務局次長も加わり、猪股副理事長の乾杯で懇親会がはじまりました。島津理事長はじめ自慢の歌が次々に披露され、三時間の楽しい時間をすごしました。

翌十日は朝早い朝食をすませ、午前八時ホテルをマイクロバスで出発、「立待岬」「ハリストス正教会」「中華会館」「旧函館区公会堂」等を見学、五島軒駅前店で昼食後解散しました。

島津理事長はじめ出席の皆様には遠路お出で戴きましたがどうございました。

本誌をかりて厚くお礼を申し上げます。

無墜落昇降柱法講習会実施

合計百名受講

昨年度に引き続き、去る9月18日と11月8日と二回北電旧資材管理所に於いて実施された。9月18日は午前中降雨はあつたが訓練に支障がなく午後の部を含め、64名が受講した。11月8日は好天に恵まれ午前中のみの訓練で36名が受講し本年度の受講総数は100名に達した。

平成5年度より制定された「引込線工事士」制度は順調に推移して、全道で一万一千名、当組合では九百名の有資格者がいるが、それらに対し「無墜落昇降柱法」の講習を義務づけており、修了者には安全帽に貼付する道工業組合発行の「受講済シール」を配付する。いづれの講習会でも業務繁多の中を、北電函館支店配電課より五六名の講師の派遣を頂いていることにつき感謝を申し上げます。



中国文化のルーツ 日本文化のルーツ（十八）

平沼智子

相撲

先づ中国の相撲を書く前に日本の相撲の歴史調べようと思ひ某日図書館をたずねた。次の文章は『和歌森太郎著、相撲今むかし』からの抜粋である。

相撲を国技というのはなぜか。本来「力くらべ」という事は人間の本能的な行動である。しかし、あえて「国技」というのは今の様な土俵の上で行う方式が全く日本独特なもので、人類史、世界史にもないとこから「国技」と呼ばれている。

相撲の歴史は古く、今のイランあたりにあつた五千年ほど前のバビロニア國の遺跡から、青銅の相撲人形をあらわしたものが出土し、更にエジプトのベンハツサノ横穴の壁画に描かれた相撲図もある。東洋でも仏教經典としての「法華經安樂行品」に「相撲」の文字があり、「涅槃經」に「力士」の文字があらわれる。中国の吉林省鴨綠江中流右岸の通溝にある、高句麗（古代朝鮮の王国紀元前三七一六六八）の古墳の壁画にも相撲の図がある。

「すもう」をあらはす「相撲」の文字は仏典からで「角力」「角觚」の文字は漢籍から由来する。しかし「力くらべ」としての相撲は「すもう」という日本語をあてて理解したのは「すもう」→「すまい」から由來し、「すまい」は「相舞」と記録されている。「大字典」にも「相撲」はスモウとルビがつけられていると思う。さて、「舞」は一人で演じ「相撲」は二人で行なうものではないかという疑問がおこるが、愛媛県の「大山祇神社」における初夏の御田植祭で、一人が目に見えぬ精霊を相手に相撲の形をすることなど、全く「舞」といつてもよい程である。そうした「すまい」から進化して互に手を取りあって相対しながら敗を競いながら勝者に神の恩寵と加護があり幸を得られるという信仰も根強くある。

「古事記」（現存する日本最古の歴史書）に記載されている伝説には、神代の時代、「建御雷神」と「建御名方主神」が出雲の伊那佐という浜辺で「力くらべ」をしたといふ。これが我が国相撲史をかざる「ベジ」であるのだが、これはあく迄も伝説である。此事は高天原系の支配者のメンバーの一人である「建御雷神」が出雲の勢力社のメンバーワーの一人である「建御名方主神」を破った相撲であるが故に「出雲の國ゆづり」の話につながり、大和王朝の勢力下になつた事の暗示ではないかと思われる。

出雲地方が大和王朝に統合されたのは四世紀前後のことであり、このころの伝説に「野見宿禰」と「当麻蹴速」が相撲をとり、「宿禰」の方が勝ち「蹴速」は腰を折つてしまつたという。

「古事記」に残つてゐる古代の話は以上のことであります。

り、平安時代、七月七月に宮中で行なわれたとあるのは、中国からの「七夕」の行事の一つであろうと考えられる。(以上が「相撲今むかし」の始めの部分の要約である)さて郭伯南氏が述べるところの中国の相撲はどうであろう。

『私がはじめて相撲と云うものを見たのは十数年前、日本の大相撲の中国初興業の時で北京工人体育馆は大入り満員の盛況でした。

力士特有のい立ち、格闘技、軍配を手に錦織りの装束をつけた行司を見ていると、蒙古相撲の開始場面さきに「水滸伝」の一節、泰山山麓の岱岳廊での有名な相撲の場面がまたたに浮かんできます。

……これは奉納相撲であった。まず年配の行司が竹批(竹べら・軍配に当る)を手に登場、神を拝してから二人の力士を呼び出す。力士の一人「任原」は頭は一窓の穿心紅角子(中を透かして赤い元結でゆつたまげ)を結ね(輪にしてたばねること)、献台(奉納試合の舞台)に飛び上り、大声で神に祈りをささげ、神水を二口飲み。相手の「燕青」も同じく頭巾をとつてきれいにゆつたまげを出し、舞台に上るとその隅にしゃがんで型を示した。行司は竹批を手に相撲の規則書を読んで「おわかりですか。だまし手を使つてはなりませんぞ」と。つづいて、「始め」の掛け声で両力士の取り組みが始まった。……

これは千年も前の宋代の相撲の様子。眼前にあるのは今の日本の大相撲。時代も違う国も違っていますがなんとよく似ていることだろう。いづれの試合も舞台代の魏に替つて司馬炎が建てた。(二八〇年)王隱の「晋書」である。奏・漢代には角鯨・角力と呼ばれた。呼び方は異なつても、いづれも「角」の字がついている。力士のまげも「角」のような形にゆわれている。どうしてそうなつたのだろうか。

伝説によると凡そ五千年前の昔、黄帝は蚩尤と涿鹿(

河北省)で大戦を交えた。蚩尤は「銅の頭に鉄の額」をもち「頭に角あり、角で人を転き、まったく手に負えない」と評された。蚩尤は最後に敗れて殺されるが

その角で「人を転く」という勇敢な戦いぶりは、永く人の心にとどまり「戦いの神」として尊ばれた。秦・漢のころ蚩尤が戦つた處では民衆は蚩尤を祠り、「三々五々頭に牛の角を頂いて転き合い」をし、これが「角転戯」あるいは「蚩尤戯」と呼ばれるようになつたとの事である。

伝説で蚩尤は「銅頭鉄額」と伝わっているためか「角転戯」をするときも銅や鉄でつくった角で頭を飾つたのである。江蘇省での出土品に三戰年前の青銅製の牛の角が発見されているが、それは西周初期の「角転戯」の遺物であるかも知れない。

「角転戯」は最初は狩獵の祭の際、野牛と闘う姿をまたものかも知れない。とすれば蚩尤の伝説より古いと思われる。浙江省余姚県の河母渡の原始社会の住民は水牛を崇拜し、あるいはそれをトーテムとしたのであろうか、その出土品の中に赤い陶製の水牛の角があつた。あるいはそれは狩獵の祭に使う芸芸道具であつたかも知れない。今を去る七千年前の話である。

相撲が上古の神事のための「角転戯」にさかのぼることは忘れて去られているが今日絵の中にそれを見ることが出来る。漢の画像石や敦煌の壁画に描かれてある相撲図がそれで力士のまげは牛の角の型にゆわれている一本角のものもあり、二本角もある。唐代の力士は頭巾をかぶっているが角形のまげがほんやりと見える。

なお、中国では格闘技のことを「角闘」といい、互に争うことを「角逐」というがこれは明らかに相撲を起源としていると思われる。それと神水(力水)を飲む習わしも上古の角転や神事の原始的な意味をとどめているのではないかと思う。

相撲という言葉が最初に現れたのは、東晋(三国時代の魏に替つて司馬炎が建てた。(二八〇年)王隱の「晋書」である。奏・漢代には角鯨・角力と呼ばれた。

呼び方は異なつても、いづれも「角」の字がついている。力士のまげも「角」のような形にゆわれている。どうしてそうなつたのだろうか。

伝説によると凡そ五千年前の昔、黄帝は蚩尤と涿鹿(

のころ毎年十月になると天子は将軍に命じて「射御・角力」などの試合をさせたとある。射は弓術のこと、御は車を御すこと、角力は相撲のこと。当時の角力は狩獵行為の模倣ではなく軍事的な体育種目の一つであつた。秦代には相撲は軍事の一科目であると共に帝王の娯楽のための催し物であった。漢の武帝のとき皇帝の上林苑ではよく角転の試合が行なわれた、「元封三年(前一〇八年)角転戯をやつた。三百里内みなそれを見にきた」とあることからもその規模の大きさがうかがえられる。秦・漢の遺跡からもいつれも当時の「角転戯」の遺物であるかも知れない。

「角転戯」は最初は狩獵の祭の際、野牛と闘う姿をまたものかも知れない。とすれば蚩尤の伝説より古いと思われる。浙江省余姚県の河母渡の原始社会の住民は水牛を崇拜し、あるいはそれをトーテムとしたのであろうか、その出土品の中に赤い陶製の水牛の角があつた。あるいはそれは狩獵の祭に使う芸芸道具であつたかも知れない。今を去る七千年前の話である。

相撲が上古の神事のための「角転戯」にさかのぼることは忘れて去られているが今日絵の中にそれを見ることが出来る。漢の画像石や敦煌の壁画に描かれてある相撲図がそれで力士が頭に冠をかぶって、二人は取り組み中、あと二人は腰に立つて審判にあたつている。

漢の「角転図」は湖北省江陵の鳳凰山にある前漢の古墳から出土したもので絹地に描かれており、武人二名が取り組み審判が一人いる。面白いのは武人の一人は角のついた冠と仮面をかぶり他の一人は頭にくわい葉状の先の尖った飾りをつけ赤い腕輪をはめていることである。双方仕切りに入りまさに闘わんとしている力士が仮面をかぶり赤い腕輪をはめている、これは「喬相撲」つまり「扮装相撲」ともいえるものである。

これでも判るように相撲は次第に軍事性が薄くなり芸術性が濃くなつて来ている。

この二幅の「角転図」でとくに注意すべきは二人の審判の姿である。前者は相撲のとり手と同じように裸にはだし、がつしりとして力強くみえます、審判でもあり力士でもあることが判る。

後者はそれと違つて「なり」を整え上品で弱々しい体つき、端正かつ謹厳な様子は今日東京国技館の錦織りの装束をまとつた行司とよく似ている。当時の相撲はすでに明確な規則が出来ているので、これは職業化した審判がいたことの証明であろう。

それは皇家の祝典に欠かせぬ遊戯の一つであると共に

さまざまな遊戯から分化して独自の活動をするようになったからである。

隋代の都では相撲大会が行なわれ、人々はこぞつて見物に行つた、隋の煬帝も庶民に変装して幾度も見に行つたとのことである。

唐の末、蒙万贏^{モウバンヤウ}という有名な力士がいた、相撲の道に入つて數十年常勝不敗であった、もともと彼は皇家の相撲取り仲間きつての名手で三代の皇帝に仕え、四海に名をはせていた。都の貴族の子弟や任侠の士で彼を師として技を学んだ者は数百人の多きにのぼつたといふ。御用相撲の大家であり中國体育史上における有名なコーチであつたわけである。

五代に入るに相撲は更に発展する。當時「調露子」という署名のある「角力記」が書かれて、相撲の起源発展、相撲に関する文献などがかなり系統的に述べられている。「角力記」は中國最初の相撲学の専門書と云つてよいであろう。

宋代は民間芸術の栄えた時期であり、相撲の黄金時代でもあつた、當時寺の縁日には必ず相撲があり、早朝に始まり夜まで黒山の人だかりになつたそうである。そのため、職業化した相撲取りが次々と出現した、南宋の都、臨安（現在の浙江省杭州）には相撲とりの同業組合（角鈍社）ができ、そのうち名を知られた者が五十人を越えていたそうである。

「水滸伝」の中に「李達」と「焦挺」との相撲の場面が生き生きと書かれている。

李達は大声を上げ乍ら焦挺を相手に命をかけて取りくむ、焦挺は李達ほどのごつさはないが体を稜敏にかわして一蹴りで李達をけり倒した。四つんばいになつた

李達は「参った」と叫ぶ、じつは焦挺は「父祖三代相撲をなりわいとした」家の生まれ、その手は「父子相伝の絶技であった。

このことから早くも北宋時代に世襲的に相撲で暮らしせを立てゝい者がいた事がわかる。御用相撲が宮廷を出て職業相撲取りになるには少なくとも一千年あまりの歴史を経ることになる。

宋代には男相撲のほかに女相撲も現われた。

このため風波が巻き起ることとなる……

嘉祐年間（一〇五六・六三）のこと、上元節になると仁宗帝は宣德門へ行って「百戲」を観た、その中の一つが女の裸相撲であつた。

技がすばらしいと云うので皇帝から褒賞をうけた、時

の有名な史学者の朝臣司馬光はそうは考へず、「婦女裸戯」は風俗をきわめて乱すものとしていた。そこでわざわざ「上元会の女相撲を論ずる」という訴状を書いて今後女が街頭で相撲を見せ物にして観衆を集めはならぬと嚴禁の詔を出してほしいと皇帝に上奏した。それ以来、女相撲は「裸戯」と呼ばれるようになつた。

しかし実はひどい濡れぎぬであつた訳で「裸戯」といっても襟なしの短い袖の競技服を着て首筋と腕だけを出していただけであつて、これは唐代の婦人の服装に比べて行過ぎたものではなく、「裸女」とか「風俗を亂す」などの中傷をして騒ぎ立てたものであつた。

女相撲は宋代に始まつたものではなく、もつとも古い記載は三国・吳の宮廷相撲であつた。女官達は髪に金の飾りをさして相撲をとり壊れた飾りは一日に千を数えたと云われている。しかし女相撲が民間の芸能として公開されたのは宋代になつてからである。それはやはり相撲の盛んになつてきた必然的な産物であつた。

司馬光は禁止を唱えたけれど禁じきれなかつた、南宋の呉自牧の「夢梁錄」によると臨安では相撲の始めにはまづ女相撲を数組取り組ませて客寄せをし、それから男の登場になり激しく競い合つて盛り上げると云う筋書きであつた。

當時臨安では相撲の名人が輩出したが、そのうち多く名をひゞかせた女相撲も少くなかった。宋の呉自牧の「夢梁錄」によると臨安では相撲の始めにはまづ女相撲を数組取り組ませて客寄せをし、それから男の登場になり激しく競い合つて盛り上げると云う筋書きであつた。

（註）文中にある「野身の宿祢」

垂仁天皇の代、埴輪の制度をつくりて公卿の墓に埴輪を置く風習が確立され、それを源をうかがい出来るのはおもしろいことである。

（註）文中にある「野身の宿祢」

垂仁天皇の代、埴輪の制度をつくりて公卿の墓に埴輪を置く風習が確立され、それを源をうかがい出来るのはおもしろいことである。

イの甥でアイゾンルクという娘はいた、その名前は蒙古語で「明るい月」を意味する。この娘、相撲の絶技を身につけていた。父親がすばらしい婿を選んでやろうとした時、娘のいうには「求婚者みんなと相撲を取つて妻を負かした人の嫁になる、わたしに負けた人は騎馬百匹を賠償すること」と。

ブルマー王子は向うところ敵なしと云ふ力士で馬千頭を伴つて求婚にきたが、コテソコテソに負けて了つた。娘は連戦連勝なんと一万頭の騎馬を勝ち取つたといふ。

この話は必ずしも真実ではないかも知れぬ。しかし、元代の女相撲に名手があらわれ男と勝敗をかけて争い勝つとも劣らなかつたという事を物語つているのではないか。

中国の角鈍と日本の相撲、兩者ははたして同じ源流であろうか、日本の相撲は中国漢代の「角鈍図」に描かれたものによく似ており、唐・宋代の相撲試合の形式や規則にもよく似ている。しかし今のところ日本の相撲が中国から伝わつたものだと云う事を裏づける証拠はない。

今日の中国の競技には昔の風俗の影は薄いが、かえつて現代の日本の相撲から古代中国の相撲の姿やその起源をうかがい出来るのはおもしろいことである。



2級電気工事士

国家試験・受験準備講習会

八年度の2級電気工事士国家試験は学科が六月二日実技が七月二十一日に施工された。これに先立ち恒例の受験準備講習会を行った。施行要領は次の取り、

◎学科講習		五月二十九日—五月三十一日	
午前	午後	二十九日(火)	三十日(水)
法規(大鎌)		三十一日(木)	
機器(内藤)	材料(内藤)		設計(酒井)
理論(西岡)	工事(酒井)	試験(酒井)	

午前	午後	十六日(火)	十七日(水)	十八日(木)
資材選別(酒井・大鎌)				
午後	単位作業(内藤・津島・五十嵐・池田)			

◎実技講習 七月十六日—七月十八日

受講者は学科五十八名、実技四十六名で国家試験の結果組合で判明した合格者は、学科二十九名(五六・八%)実技は三十八名(八二・六%)で昨年に比べても又全道的な水準からも高い合格率であった。講師の皆様には繁忙期のなかをご尽力下さり誌上をかりて厚く御礼申し上げます。

講師各位

西岡大成氏

(株)西岡電気

酒井好一氏

(三立電気㈱)

大鎌哲雄氏

(大鎌電気㈱)

内藤俊男氏

(函榮電気エンジニアリング)

対島豊四郎氏

(株)対島電設)

五十嵐照夫氏

(有)五稜郭カスガ)

池田昌義氏

(日栄電気㈱)

昭和五十三年四月、亡父義一氏の事業に参画するため同社を退職し(株)工藤電気商会に入社、以来優秀な技

全日電工連

第十三回電気工事業全国大会

能と非凡な才能をもつて会社の発展に寄与して参りました。

昭和五十九年一月二日、代表取締役の父親が急逝し大きな悲しみに包まれましたが、不屈の精神をもつて前社長の意志を継いで弱冠三十一才で代表取締役に就任しました。

それからは以前にも増してたゆまぬ努力を続け、着実に社業を伸展させるかたわら、昭和五十八年八月当組合で青年部が設立されると率先入会し、若手経営者会では『原子力発電の促進を求める特別決議』を採択し盛会裡に終了した。

前日の青年部研修会に始まり当日午後一時からの三分科会のあと午後三時からの総会では、青年部研修会と第三分科会のテーマである原子力問題に関連して総会では『原子力発電の促進を求める特別決議』を採択し盛会裡に終了した。

平成元年には函館港まつり一万人踊りパレードに電線マン音頭を取り入れ、更に平成五年四月青年部副部長に就任してからは、当組合の大レクリエーションを企画する等新しい分野の開拓に取り組んで参りました。

追悼記



㈱工藤電気商会代表取締役

役工藤雅史氏は、去る七月十九日入院先の函館中央病院において、肝不全により四十四年の生涯を終えられました。

工藤氏は、四月中旬体調

がすぐれず入院、肝炎といふことで療養に専念し、遠からず退院復帰すると信じていただけに、突然の計報は私共関係者一同ただ驚きと哀惜の念に堪えないばかりであります。

故人は、昭和二十八年一月十六日函館市で生まれ、道立函館中部高校から千葉工業大学電気科へ進学、昭和五十年三月同校を卒業と同時に日精株式会社に入社しました。

工藤さん、どうか安らかにお眠りください。
故人の生前の功績を偲び、謹んでご冥福をお祈りして追悼の記といたします。

次代の変化にこたえる感性
総合販社

東芝E&S北海道株式会社

函館支店

函館市大繩町二十二番十四号
電話 040-2224-1号



快適を科学します

松下電工株式会社
函館出張所

函館市西桔梗町五八九番地一〇七
電話 041-491-1525

電気設備機器資材の総合卸商社

大興電機株式会社

電設資材・機電総合卸
本社 041-31
センターコーナー
電越電話
○八云
三内
一浦
三町
二二一四二
六〇四一
九七九七一七
電話 041-31
電話 041-31
本社 041-31
センターコーナー
電越電話
○八云
三内
一浦
三町
二二一四二
六〇四一
九七九七一七

電設資材・機電総合卸

進和電機株式会社

電函館市松
四川二町
一三四
二二一
三一三

未来環境を語る・造る

株式会社 工函三業ヤ所

函館市富岡町二丁目四一
電話 040-431-301
本社 札幌・
営業所 鉾路、苦小牧

電気工事材料
音響通信機器
総合商社

石垣電材株式会社
函館営業所

本

支
函館営業所

松下電工
(株)特約店
立電線
(株)代理店

日松
立電
線
(株)
函館
支
所

040

函館市市場町十九番二十一
F電話 040-555-1132
A電話 040-555-7240
X電話 040-555-4015

電設機材
エレクトロニクス
総合商社

田中商事株式会社

函館市亀
山町
四田
一
十
三
八
番
號
本社 040-431-1308
営業所 札幌、東札幌、鉾路
一〇八〇号

